

視察（研修）報告書

令和6年10月21日

府中市議会議長 様

会派名 経政会
議員名 藤本 秀範

日 時	令和6年10月16日（水）～令和6年10月18日（金）
視察（研修）先	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）
視察（研修）項目	地方財政制度の考え方と自治体財政
参 加 者	藤本秀範
視察（研修）内容	〔1〕講師：鳥取県^{ほうきちやう}伯耆町 町長 森安 保 ●伯耆町の町政運営と財政健全化 ・鳥取県の西側に位置する人口は10,300人規模である。経済圏の中心は米子市であり勤務地の柱となっている。人口の減少と合わせ高齢化率が4割を占めるなか紙おむつを資源とした燃料化事業に取り組んでいる。町営温泉施設のガスボイラー補助熱源エネルギーの地産地消を目指している。 〔2〕講師：総務省地方財政審議会 会長 小西砂千夫 ●地方財政制度の考え方 ●臨時財政対策債は本当に確実に償還できるか ●社会保障給付増を交付税は支え切れるか ●経常収支比率は80%が適切であるか ・地方財政の歴史から国税と地方税の税源分離とした財政調整制度はシャープ勧告を受けて廃止となり地方交付税法に位置づけられた。国税収入の法定率分方式の導入から基準財政需要額から基準財政収入額を除いた額を交付する配分方式である。地方自治体財源の決定については、国の予算過程と並行して策定される地方財政計画で総額が確保され、地方交付税を通じて衡平配分される理解が中心的講義であった。 〔3〕講師：兵庫県川西市 副市長 松木茂弘 ●財政健全化における川西市の取り組み ・組織マネジメント機能の強化（組織力と職員定数の管理） ・財政計画に基づく公債費のコントロール ・財政運営のブレーキとアクセルの踏み方

所 感	本研修は、地方財政制度の考え方や仕組みを学び、自治体財政の現状や様々な問題点を論点として捉えることの出来る講義であった。全体を通して意見交換会資料と事前課題集計表を基に班ごとに分かれ意見交換を実施。班でとりまとめた内容と課題について発表し、講評および講義内容に反映させた。発表内容は以下のとおりである。 ○テーマ：予算決算を議員の立場でどう考えていくのか？ ・出納閉鎖期間による決算説明書について早期閲覧を要望する。一般会計／特別会計の中身を明確に示すことで改善につなげる糸口はあるのか。事前課題で各自治体の内容を俯瞰的な視野で捉える。健全化に対する指標と策定された総管理計画の検証と中期計画を財政見通しとあわせ、今後の公共施設や道路の橋梁等の経年劣化による投資的経費の増加が見込まれる。看過できない生産年齢人口の減少、老年人口が増加する傾向から将来的なインフラ経費の増加と市債および財政調整基金の動向を懸念している。議会議員の役割として一般会計および特別会計による継続審査の必要性和財政指標の比較とポイントについて講義を求めた。 ●対策の柱とした講義→人口減少とデフレ脱却による需給バランスと労働力低下を補う第4次産業革命とデジタル技術を加味した将来設計を受講した。 全体を通して、関係予算に対する協議を踏まえた実演習が出来た。受講内容をもとに本定例会や委員会等における議会活動に広く活用していく所存であり、議会議員としてさらに磨きをかけた活動にも一段と力を添えてまいりたい。
-------------------	--